

# 米国原子力艦の寄港に伴う放射能調査について

沖縄県うるま市にある米軍基地、ホワイトビーチ（金武中城港内）は、日米両政府の取り決めにより神奈川県横須賀港、長崎県佐世保港と共に原子力艦寄港地になっています。

沖縄県では、本土復帰した1972年から、寄港地周辺住民の健康と安全を守るために、原子力規制庁(2013年3月までは文部科学省(旧科学技術庁))から委託を受け、関係機関と協力しながらホワイトビーチ周辺の放射能調査を行っています。

原子力艦寄港による放射線の変動を監視するため、放射線を測定する設備（モニタリングポスト）を4カ所に設置して常時監視しています（図1、2参照）。モニタリングポストで異常値が検出された場合には、警報が鳴り関係機関に知らせる仕組みです。また、ホワイトビーチの内外10カ所に、約3ヶ月間の放射線量の合計値を記録する積算線量計という機器を設置するほか、寄港地周辺の海水や海底土、大気試料を採取して、原子力艦に由来する放射性物質について調べています。

原子力艦寄港時には、原子力規制庁や海上保安庁と共に調査を行い、非寄港時の放射線量と比較して、影響の有無を調べています。

ホワイトビーチへの原子力艦の寄港は、沖縄県が本土復帰した1972年5月～2013年3月までに通算456回ありました（図3参照）。

近年の寄港状況については、2007年度より6年連続で年間寄港回数が30回を超えるなど、以前と比べて増加しています。

調査開始した1972年以降、ホワイトビーチにおいて、原子力艦に起因すると思われる放射性物質は検出されていません。

これらの調査結果は、公益財団法人 日本分析センターが運営・管理する『日本の環境放射能と放射線』のホームページで公開されています。

<http://www.kankyo-hoshano.go.jp/05/05.html>



図1. 沖縄県うるま市にあるモニタリングポスト設置場所



図2. モニタリングポストの検出器（対策本局屋上）

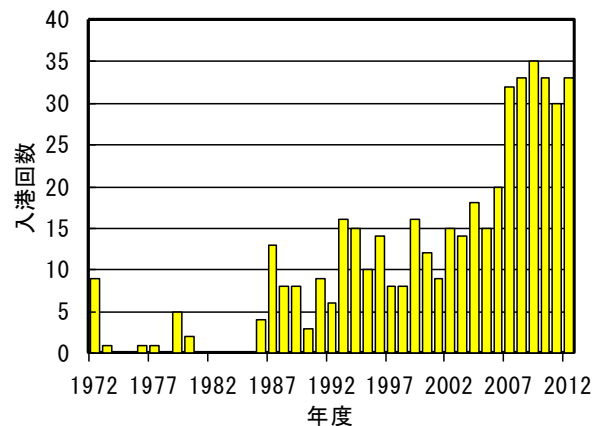


図3. ホワイトビーチへの米国原子力艦寄港回数

【環境科学班】